

## 慶應大学湘南藤沢キャンパス 2014 年度秋学期シラバス

- ・ 科目名：『地域協働とフィールドワーク』
- ・ 英語名：REGIONAL COLLABORATION AND FIELDWORK
- ・ 担当：中島直人、坂倉杏介（非常勤講師）、SFC 政策研究支援機構メンバー有志
- ・ 単位数：2 単位
- ・ 設置理由：本授業は、SFC 政策研究支援機構からの寄附講座として開講するものである。SFC 政策研究支援機構は、慶應義塾の卒業生有志の基金によって、学生主導によるフィールドワーク研究を支援するために 1999 年に設立された組織である。毎年、複数のフィールドワーク研究助成が行われ、SFC にふさわしい、問題発見・解決型の学びを支える、最も重要な制度の一つとなっている。本寄附講座は、SFC 政策研究支援機構の制度理解を深め、メンバーの智を伝達しつつ、塾員、教職員、学生が一体となって実践的なフィールドワークによる研究促進を支援することを目的として 2007 年度に創設された。一方、そのフィールドワーク先となる地域は、行政や企業だけでは解決できない課題を抱え、地域再生は政府の重要施策の一つである。その解決策の一つとして、昨今、地域大学連携が注目を集めている。これは、市民と学生の両者に気づきや活力を与え、同時に地域で活躍する人材を育成する可能性がある。一方、地域と学生が上手く連携し課題解決していく方策については模索段階である。高まる大学への期待に応えるため、学生、教員、地域関係者が共に、地域大学連携の意義、可能性や課題を議論し、解決策を導き出す機会を設置する必要があると考える。
- ・ 講義（科目）概要：本授業は、これからの地域づくりやコミュニティ活性化にむけた具体的方策、プロジェクト企画の方法を、全国の社会イノベータたちが取り組むユニークな地域のイノベーション活動の事例から学ぶ。そのため、SFC 政策研究支援機構の助成を獲得した地域大学連携プロジェクトを紹介したり、地域にイノベーションを引き起こす実践者をゲストにお迎えしたり、地域活性化事例のケース教材を使いながら、地域づくりの可能性や課題、解決策、そのなかで大学の役割などを議論する。対象は、政策研究支援機構のフィールドワーク助成を受けているまたは検討している学生、実際に地域でのプロジェクト活動を計画または推進している学生、地域大学連携に関心のある学生などとする。最終成果として、地域の問題解決につながるプロジェクト計画書を作成し、そのアイデアを授業内で発表してもらおう。そして、発見的・発明的な手法で地域大学連携、地域再生を推進する「地域イノベータ」として必要な実践知を学ぶことを目的とする。
- ・ 前提科目：特になし
- ・ 関連科目：まちづくり論、都市計画とまちづくり
- ・ 評語タイプ：A・B・C・D・/

## 1. 主題と目標／授業の方法など

本授業では、地域大学連携をもたらすための具体的方策、プロジェクト企画の方法を学び、「地域イノベータ」として必要な実践知を学ぶことを目的とする。SFC 政策研究支援機構のフィールドワーク助成を受けているまたは検討している学生、実際に地域でのプロジェクト活動を計画または推進している学生、地域大学連携に関心のある学生などを対象とする。

最終成果として、地域の問題解決につながるプロジェクト計画書を作成し、そのアイデアを授業内で発表してもらうことを検討している。

## 2. 教材・参考書

- ・参考書：國領二郎、飯盛義徳編『「元気村」はこう創る』日本経済新聞出版社、2007年。
- ・参考書：飯盛義徳『社会イノベータ』慶應義塾大学出版会、2009年。
- ・参考書：熊倉敬聡、坂倉杏介他著『黒板とワインーもう一つの学び場「三田の家」』慶應義塾大学出版会、2010年。
- ・参考書：西村仁志編、坂倉杏介他著『ソーシャル・イノベーションが拓く世界』法律文化社、2014年9月発行予定。
- ・その他、ケース教材など別途配布。

## 3. 授業計画

- 第1回 9/30 イントロダクション (本授業の目的、内容、成績評価)
- 第2回 10/7 「地域」と「私たち」をめぐって (グループディスカッションと自己紹介)
- 第3回 10/14 地域イノベータとは？：新たな地域づくりの潮流 (背景、意義、可能性や課題、政策の最新状況等)
- 第4回 10/21 先輩たちの活躍1 (SFC 政策研究支援機構助成者の講演)
- 第5回 10/28 先輩たちの活躍2 (2014年度 SFC 政策研究支援機構中間発表)
- 第6回 11/4 地域とコミュニティの諸問題 (講義とディスカッション)
- 第7回 11/11 イノベーションの創出要因 (講義とディスカッション)
- 第8回 12/2 フィールドワーク：オブザベーションとインタビュー (講義と実習)
- 第9回 12/9 プロジェクト計画設計 (グループワーク・個人ワーク)
- 第10回 12/16 地域のイノベーション活動の事例研究1 (ケースディスカッション)
- 第11回 12/26 地域のイノベーション活動の事例研究2 (ケースディスカッション)
- 第12回 1/6 プロジェクト計画発表1 (発表、ディスカッション)
- 第13回 1/13 プロジェクト計画発表2 (発表、ディスカッション)
- 第14回 1/20 まとめ (地域イノベーションプロジェクトの可能性について考察)

#### 4. 提出課題・試験・成績評価の方法など

- ・ 授業では、SFC-SFS を活用し、適宜、簡単なレポートや感想の提出を義務づける。また、ディスカッションを中心とした授業が多いため、積極的な発言が求められる。試験は行わず、最終成果としてプロジェクト計画書を作成、提出してもらう。
- ・ 成績評価は、出席が 30%、クラスへの貢献（発言、授業レポートの内容、計画書の発表など）が 40%、最終成果レポートの内容が 30%の割合で総合的に判断する。

#### 5. 履修上の注意

- ・ 本授業は、議論やレポートなどかなりのワークロードを必要とする。そのため授業内容に強い興味、関心、情熱がある方の参加を希望する。
- ・ 授業内の発表では、パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトを用いる。
- ・ ゲストスピーカーのご都合により、授業内容、日程が変更されることがある。最新版のスケジュールは、SFC-SFS を確認すること。
- ・ SFC 政策研究支援機構による研究助成を受けた学生グループ、またこの制度に関心のある学生には履修を強く促す。

#### 6. 前提となる知識

まちづくり論やソーシャルイノベーション系の科目を受講しているなど、地域活性化に関する基礎的な知識があることを前提に授業を行う。

#### 7. 履修者数制限

履修制限を行う（約 30 名）。30 名を超える場合は、初回の授業で提出してもらうレポートで選抜する。